

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	進学・就労特化型支援事業所たんぼぼ		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 5月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	業務改善を進めるためのPDCAサイクルでの目標設定と振り返りをして、職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげている。	何か検討事項があった時には、その都度職員で話し合いの場を設けて改善し、全体会議でも意見や内容を把握する時間を設けている。	普段の支援の中でも、職員同士確認しながら声掛けをし、現状の共通理解を図っている。
2	個々の子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解し最善の利益を考慮した検討して児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行い、支援前に職員間で打合せをし、支援の内容や役割分担を確認し、チームで連携して支援を行って職員間で打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを計画書に気付いた点等を記入し共有している。	会議などを行い、職員全員で話し合っモニタリングをし、職員全員で話し合いをし検討している。支援計画なども職員が確認出来る場所に計画書を置き支援出来るようにしたり、毎朝活動内容を流れを確認してどんな支援をするか、職員間で話し合いをし情報共有する時間を設けて支援を行っている。	検討事項があったり問題が起きた場合は、話し合う時間を設けて状況の確認してその都度打ち合わせをし情報共有を図っている。
3	児童発達支援計画の作成時、子どもや保護者の意思や子どもの最善の利益の優先考慮をし、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行い、職員も含め障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	利用者、保護者の状況や思いを聞いて支援計画の作成をし、相談等があった場合は、電話、面談、連絡帳にて相談に応じている。会議や研修を行い、職員間で利用者の障害に対する共通理解を図っている。	支援計画の作成にあつては、保護者の意見や思いだけにならないように、普段の利用者の状況を考えて利用者の利益になる様に支援している。他にも普段から利用者や保護者の悩みなどの相談にも時間を設けて助言と支援を行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有が毎日出来ていない。	毎日問題行動があるわけではない事や毎日個人的に利用者の支援日誌に利用者の状況を記入して、いつでも確認出来る様にはしているが、毎日の確認が出来てはいない。	毎日ではないが、出来るだけ時間を設けて検討事項がある場合はその都度打ち合わせはしているので、支援後の話し合いが出来る様に検討していく。
2	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラムでのペアレント・トレーニングでの家族等の参加できる研修会を行う事は出来ていない。	保護者を集めペアレントプログラムでのトレーニングの家族支援での研修会を開催していない。	保護者の個人的相談には助言や支援方法等の話し合う個人面談は行ってはいるので、保護者の相談会を開催しその中で研修する機会を検討していく。
3	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っていない。	近隣や地域住民との関わる機会を作る、イベントや活動を事業所として検討していなかった。	地域イベントに参加したり、地域の外部講師を呼んだり行ったりし活動交流しているが、地域住民を読んで交流は出来ていないので、今後期間限定で事業所開放し見学や相談が自由に出来る様なイベントを検討していく。